

令和7年度 茨城県立農業大学校評価表

重点目標Ⅱ 【 社会性を養う教育内容の充実 】

1 現状及び課題、並びに評価項目

現 状	課 題	評価項目（達成目標）
<p>○当校の卒業生には地域で指導的な役割を果たす優れた農業者が県内各地に多く、また、農業経営士や農業法人経営者等とも派遣実習や特別講義の授業などを通じ長年にわたる交流がある。学生が在学中に社会人として必要な資質を学ぶうえで協力を得られやすい環境にある。</p> <p>○学生は卒業後社会人となり広く人間関係を構築していく社会性が求められる。</p>	<p>○学生の中には人とのかかわりあいのが苦手だったりコミュニケーションに個人差があり、社会性が不十分な学生が散見される。優れた農業者を講師とする講演や実習を充実させ、社会人として必要な資質を身に付けさせる必要がある。</p>	<p>社会人としての資質向上</p> <p>・社会人として資質が向上したと回答した学生の割合 100%</p>
<p>○農大では共同生活を通じ学生生活や寮生活を送る中で自立と協調の精神をかん養する教育を目指している。自治会活動では学生自身が自主的・民主的に学生生活を運営することで学生生活と各種活動の充実と向上を、寮生活では共同生活を通じ連帯感と自立精神、学生相互の交流の中で協調性や主体性を養うことを目指している。</p> <p>○学生は自立に向け社会性を身に付けている最中であり、寮生活、自治会活動とも主体的な運営には職員の助言指導が必要な場面がみられる。</p>	<p>○学生の中には規律性に対する意識が低い者や全体的に消極的な態度の者も見られる。職員が助言指導を行い、学生全体が寮生活や自治会活動を自主的に運営できるように促し、自立と協調の精神を身に付けられるように指導する必要がある。</p>	<p>学生生活の充実</p> <p>・委員会活動回数 （農業部・園芸部各々年12回）</p> <p>・環境美化活動回数 （農業部・園芸部各々年4回）</p> <p>・学生自治会活動回数 （農業部・園芸部各々年5回）</p> <p>・学生生活が充実していたと回答した学生の割合 100%</p>

2 評価項目別の評価及び次年度の課題等

(1) 社会人としての資質向上

達成目標	達成度	評価の概要	関係者評価委員会からのコメント（全般）
社会人として資質が向上したと回答した学生の割合 100%	B	<p>農業者や有識者等による講義を受けた結果、理解度が97~100%、今後役に立つが93~97%で、目標の100%には届かなかったが社会人の資質の向上となったと判断した。</p> <p>学生から販売実習で接客したことがコミュニケーションの練習になったという意見がみられ、コミュニケーション能力の向上につながる取り組みであったと考えられた。</p>	<p>達成度の評価基準と照らすとB評価で致し方ないが、達成度の評価基準をA:100%ではなく、もう少し幅を持たせた方が良いのではないかと。</p>

達成度の評価基準	
A	100%達成
B	80~99%の達成
C	60~79%の達成
D	40~59%の達成
E	39%以下の達成

目標達成に向けた具体的方策	具体的方策の取組実績及び成果	次年度の課題	関係者評価委員会からのコメント
<p>ア【継続】農業者による特別講義の実施</p> <p>・社会人としての資質を身に付けるため、農業経営士、農業法人経営者、女性農業士、青年農業士等による講義を実施する。</p> <p>農業部3回、園芸部1回</p> <p>【R6実績：農業部3回、園芸部1回】</p>	<p>ア 農業者による特別講義の実施</p> <p>【取組実績】</p> <p>特別講義の中で農業経営士や農業法人経営者等を招き座談会形式の意見交換会を開催し、社会人として必要な心構えや仲間や会話の大切さなどコミュニケーション能力を高めるためのアドバイスをもらうことができた。</p> <p>農業部3回 5/19、12/2、12/15 園芸部3回 7/4、12/15、3/5</p> <p>【成果】</p> <p>実施後のアンケートでは理解度、今後役に立つと回答した学生の割合は高く、社会人に必要な資質を習得することができたと思われる。</p> <p>農業部 理解できた97%、役に立つ93% 園芸部 100%、 97%</p>	<p>ア 農業者による特別講義の実施</p> <p>・農業者による講話や事例を聞くことは、社会人として必要な資質を学ぶ機会となっているので、引き続き先進的な農業経営者からの講話や時代に沿ったテーマで講義を実施し、社会人としての資質について学ばせていく。</p>	<p>・学生の自立が大切。リーダーとしての資質を考えた場合、これから先に経営者になったとき、働き方改革もあり、従業員に対する身分保証は注意すべきところである。社会性を養う教育カリキュラムとして先生方で指導していただきたい。</p>
<p>イ【継続】コミュニケーション能力向上のための教育の実施</p>	<p>イ コミュニケーション能力向上のための教育の実施</p>	<p>イ コミュニケーション能力の向上のための教育の実施</p>	

<p>・有識者による講演を実施する。 農業部 1回、園芸部 2回 【R6実績：農業部 2回、園芸部 2回】</p> <p>・農産物直売活動における商品知識や接客 [挨拶、言葉遣い等] について事前に学習するとともに、顧客との対面による接客を実施する。 農業部、園芸部で各 2回/月以上 【R6実績：販売実習活動 2～4回/月】</p> <p>・効果確認アンケートの実施</p> <p>ウ【継続】資格免許等の取得促進 ・免許取得促進のため、学生への情報発信、助言・指導を行う。 延べ資格免許の取得数：15種類 【R6実績：14種類】</p>	<p>【取組実績】 有識者による講義を開催し、ビジネスマナーや社会生活の中で必要とされる知識を学んだ。さらに、農産物販売で実際に対面で接客を行い、他者と円滑にコミュニケーションをとるための活動を行った。 特別講義 農業部 2回 6/30、10/31 園芸部 1回 7/16 販売実習 農業部 4.1回/月 校内 41回、校外 8回 園芸部 2.4回/月 校内 17回、校外 12回</p> <p>【成果】 特別講義実施後のアンケートでは理解度、今後役に立つと回答した学生の割合は高く、コミュニケーション能力の向上につながることができた。 農業部 理解できた 97%、役に立つ 93% 園芸部 87%、80%</p> <p>ウ 資格免許等の取得促進 【取組実績】 授業の中で受検するものに加え、希望者が受けるものについて職員から情報提供や就職活動への活用、先輩農業者からのアドバイスなどをもって資格免許の取得を推進した。 【成果】資格免許の取得数 12種類 (見込み 13種類) (刈払機、小型建機、大型特殊、けん引、フラワー装飾技能士、農業機械士、フォークリフト、家畜人工授精師、農業技術検定、チェーンソー、高所作業車、農業簿記検定) 2月にドローン操縦免許が予定されている。</p>	<p>・コミュニケーション能力を向上させるため有識者による講演や販売実習による実演を継続していくとともに、プロジェクト学習での発表や卒業研究の発表の対応を評価する。普段の学習活動の中で、コミュニケーション能力の向上を意識した学習指導を行う。</p> <p>ウ 資格免許等の取得促進 ・資格に関連する授業や各種事例発表等の中で具体的な事例を示しながら資格免許取得の必要性について理解を促進し学習指導を行っていく。</p>	
---	--	---	--

(2) 学生活動の充実

達成目標	達成度	評価の概要	関係者評価委員会からのコメント (全般)
<p>・委員会活動回数 (農業部・園芸部各々年 24回)</p> <p>・環境美化活動回数 (農業部・園芸部各々年 4回)</p> <p>・学生自治会活動回数 (農業部・園芸部各々年 5回)</p> <p>・学生生活が充実していたと回答した学生の割合 100%</p>	B	<p>活動にあたって職員からの助言指導により委員会活動は目標に対して 94%、環境美化は 113%、自治会活動は 100%と概ね目標通りの活動を行うことができた。学生生活については 81%が充実していたと回答し、友達などとの関わりの中で充実を感じる様子がかがえた。寮生活や自治会、学校行事がよりよく実施できることで学生の自主性や協調性を養う場である学生生活が充実するとともに学業を含め学校全体に良い影響となると考えられるので今後も指導していく。</p>	<p>達成度の評価基準と照らし、B評価は適当である。</p>

達成度の評価基準	
A	100%達成
B	80～99%の達成
C	60～79%の達成
D	40～59%の達成
E	39%以下の達成

目標達成に向けた具体的方策	具体的方策の取組実績及び成果	次年度の課題	関係者評価委員会からのコメント
<p>ア【継続】学生生活に関する情報の共有 ・農業部・園芸部の職員が学生の活動状況を共有し、学生に対して共通認識をもって助言・指導ができるよう、生活指導委員会を開催する。 生活指導委員会開催回数：3回/年 【R6実績：3回/年】</p>	<p>ア 学生生活に関する情報の共有 【取組実績】 生活指導委員会をオンライン併用で開催した。そのほか必要に応じてスペース等を活用し情報交換を行った。 開催回数 2回 5/22、8/27 関係者学校評価委員会の結果を以て 3回目を開催予定 【成果】 情報を共有することで学生に対し適切な助言指導を行うことができた。</p>	<p>ア 学生生活に関する情報の共有 ・学生に適切な助言指導ができるよう引き続き生活指導委員会を開催し情報の共有を図る。</p>	<p>・いろいろな行事を学生が考えながらやっていると感じる。行事を通じて地域と接することはよい事。学校だけではわからないことが多く、いろいろな環境を経験することが大事なので、これからも続けていただきたい。</p>

<p>イ【継続】寮の生活環境改善への助言・指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員が、寮の巡回を月1～2回程度行い、寮に関する課題を確認しつつ、生活環境の改善について自治会が主体的に取り組めるよう、自治会長や関係委員会に助言・指導を行う。 <p>助言・指導：随時</p> <p>【R6実績】委員会活動数：農業部32回、園芸部30回 環境美化回数：農業部4回、園芸部5回</p> <p>ウ【拡充】学生自治会活動への助言・指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生が各種活動を自主的に計画・実施できるよう、助言・指導を行う。 行事開催後に反省や感想についてアンケートを行い、改善策を立て実行を指導する。 <p>主な活動予定</p> <p>農業部：新入生歓迎会、体育祭（5月）、学科・コース大会（6月）農大祭（11月）、東関東農大交流会（11月）、2年生を送る会（2月）</p> <p>園芸部：体育祭（5月）農大祭（10月）、東関東農大交流会（11月）、地域美化活動（1月）、2年生を送る会（2月）</p> <p>【R6実績】農業部：年6回、園芸部：年5回</p> <ul style="list-style-type: none"> 体育祭、農大祭のアンケートの実施 各1回 学生生活に対する意見聴取アンケートの実施 1回（1月） <p><拡充・新規></p>	<p>イ 寮の生活環境改善への助言・指導</p> <p>【取組実績】</p> <p>適切な寮の施設管理利用に向け、問題行動後の状況確認（予防のため）やごみや掃除など生活に関する事等の助言指導を行った。</p> <p>寮巡回指導 農業部11回、園芸部16回</p> <p>自治会活動がスムーズに行われるようにするため、執行委員会や管財、美化、食事等各種委員会において学生に対して助言指導した。</p> <p>自治会の開催 農業部5回、園芸部5回</p> <p>各委員会の開催 農業部14回、園芸部21回</p> <p>学生が学習や生活を送る環境を整備する活動の実施を指導した。</p> <p>環境美化の実施 農業部4回、園芸部5回</p> <p>【成果】</p> <p>自治会、各委員会は必要に応じた時期と内容で開催することができた。職員の助言指導を踏まえ寮生活環境の改善に取り組んだり必要な内容で自治会活動を行うことができ、より良い学校生活が送れるようになった。</p> <p>ウ 学生自治会活動への助言・指導</p> <p>【取組実績】</p> <p>各種活動に関し学生が主体になって開催することを念頭において助言指導を行い、計画通りに開催することができた。</p> <p>新入生歓迎会4/29、5/2、学科コース大会5/30、体育祭5/23、農大祭（農業部11/8、園芸部10/18）、東関東地区農大交流会11/28、地域美化活動（歩く会ゴミ拾い）1/8、2年生を送る会2/6</p> <p>体育祭と農大祭の開催後にアンケートを実施した。</p> <p>学生生活に対するアンケートを実施した。</p> <p>【成果】</p> <p>体育祭と農大祭は農業部と園芸部の学生交流の良い機会にすることができた。全員が役割をもって運営に当たる状況となり大変さもあるが学生にとっては責任をもって役割を全うする良い機会となっている。</p> <p>学生生活に対するアンケートでは回答のあったうち81%の学生が充実していたと回答した。（2/3時点の数値です）</p>	<p>イ 寮の生活環境改善への助言・指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 寮の生活環境改善について自主的な行動ができるようにアドバイスしていく。寮生活や自治会、学校行事がよりよく実施できることで学業を含め学校全体に良い影響となると考えられるので今後も指導していく。 <p>ウ 学生自治会活動への助言・指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 次年度も引き続き学生がより自主性を持って活動に関われるように助言指導を行う。話し合いやアンケートなどを活用し新しい意見や考えを取り入れていけるようにしたい。 学生から体育祭、農大祭にもっと計画的に準備したいという意見が出されていて、特に年度初めのころに開催する体育祭に学生がどの程度準備に関われるか難しい部分もあるが、担当職員とよく相談のうえ学生がより関わられるような実施の仕方を検討していきたい。 学生生活に対しては、生活に不便を感じる部分もあるが友達などの関わりの中で充実を感じる意見が多くみられ、約8割が充実していたと回答した。引き続き学生が充実した生活を送れるよう指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 実績を見れば、学生の活動が十分行われていることが理解できる。
--	---	--	--

○アンケート結果概要（抜粋）

体育祭

1. 満足度（10点満点）
 農業部 7.5
 園芸部 6.9
 全体平均 7.4

2. よかったところ
 両キャンパスの交流ができたところ
 運営がスムーズだった
 チームが団結できた。
 みんなで楽しめる体育祭だった
 休憩時間があってちょうどよい時間配分だった
 みんなで協力して楽しめる競技だった
 テンポが良かった

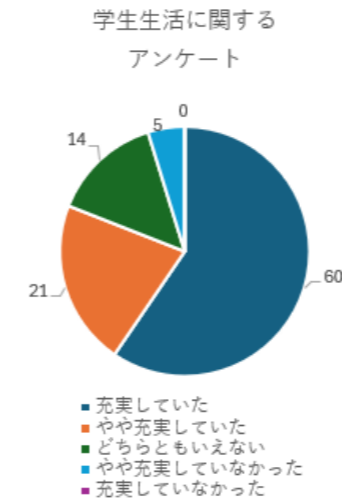
3. 改善が必要なところ
 人数差があって楽しめなかった
 点数の配点
 チームの男女構成比、経験者の数
 ルールが曖昧
 個人賞に縁のない人も楽しめる賞が欲しい

農大祭

1. 満足度（10点満点）
 農業部 8.2
 園芸部 8
 全体平均 8.2

2. よかったところ
 お客さんとのコミュニケーション
 みんなが楽しめた
 販売物が完売した
 来場者のマナーが良かった
 自分たちで企画した模擬店が繁盛して嬉しかった
 みんなで協力した
 コースで一生懸命頑張ったから
 のびのび、やりたいことができた

3. 改善が必要なところ
 もう少し計画的に準備したい
 準備が大変すぎる
 とにかく人手が足りない
 準備のスケジュールをしっかりとりたい
 準備、片付けの指示をきちんと出すべき
 休憩場所を増やした方がいい
 場内の案内表示を増やした方がいい
 接客対応の練習がしたい
 一気にお客さんが来てキャバオーバー
 シフト通りにいかなかった、伝達不足



回答理由

- ・人として成長できたと思う
- ・学校生全般が楽しい
- ・自由に過ごせる
- ・全くの一人暮らしより安心
- ・友達との交流を経て様々な価値観を知ることができた
- ・友達とたくさん話せた
- ・農大ならではの実習が良い経験になった
- ・座学と実習のどちらもが良い
- ・多少不便なところもよいと思える
- ・人間関係が難しい
- ・寮生活は不便が多い